



社会医療法人 さくら会

さくら会病院

リハビリテーション科

Rehabilitation



さくら会病院のリハビリテーション科では、急性期、回復期ともに365日リハ体制を導入し、脳神経外科・整形外科疾患を中心に、超急性期リハから回復期リハ提供体制の充実に向け取り組んでいます。

診療体制は患者担当制を基準とし担当制を通して、当院の特徴である急性期から回復期の医療を学ぶことができます。外来リハも実施しており退院後のフォローや近隣施設からの紹介も受け入れています。

また関連施設の「さくらリハビリ訪問看護ステーション」からも、セラピストが在宅訪問を実施し、急性期～回復期～在宅への一貫したリハビリテーション医療の流れを構築できるように努力しています。

今後もさらなる診療体制の充実を計画しており、リハビリテーション科スタッフの増員を進めていきたいと考えています。

施設基準

- 脳血管疾患等リハビリテーション (I)
- 運動器リハビリテーション (I)

リハ対象疾患

- 脳血管疾患：くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、頭部外傷 など
- 整形疾患：大腿骨頸部骨折、人工関節置換術、圧迫骨折、脊椎疾患 など
- 内科疾患：肺炎後廃用症候群 など

教育・啓蒙活動

- リハ科内新入職者研修実施
- 院内、各部門勉強会実施
- 臨床実習の受入れ (年間30名以上)
- リハ関連学会等での発表
- 大阪府士会活動、運営への参加、協力
- 市町村事業への協力、人材派遣
- 地域リハビリテーションセンター活動

入 職当初の私は学生気分も抜けきっておらず、社会人・医療人としての自覚や責任感などは全然無い状態でした。『こんな状態でいきなり患者さんを診ることなんてできるのか?』と不安に感じたことを覚えています。しかし、当院では新入職者向けの研修制度があり、「社会人として大切なこと」や、「リハビリテーションとは?」など働く上での責任感を感じることでできることや、「器具の使い方」「カルテ記載の方法」など実際の診療に必要な知識に関する内容など、細かく知ることができます。また、臨床場面では、先輩セラピストの治療を見学することから始まり、少しずつ治療を任せられるようになります。先輩からマンツーマンでの指導を受けながら、社会人としての自覚が徐々に芽生え、セラピストとしての知識・技術も少しずつ向上していきます。

当院でのリハビリは、急性期・回復期・維持期(外来リハビリ)と様々なステージの患者様の治療を行えることが特徴です。診たことのない疾患、難解な病態など分からないことにも多々直面しますが、先輩に相談することで熱心に教えてくれる為、非常に勉強になり、自分自身の成長を実感できます。

臨床場面では、分からないことだらけであり、悩み続ける毎日ではありますが、患者様の笑顔、感謝の言葉を頂けると、「本当にこの仕事を選んでよかった」と感じますし、もっと頑張ろうという気持ちにもなります。



(理学療法士:3年目)

先輩からの一言

採用情報

- 府外在住者は近隣の単身用の賃貸マンションを利用することも可能です。詳細は当院ホームページをご覧ください。

<http://www.sakurakai.jp/>

私達は急性期から回復期に特化した医療の提供と、維持期まで一貫したリハビリサービスの提供、リハビリテーション医療の質の向上（技術、知識・速さ・効率性）を目指します。



**リハビリテーション科
専門医が常勤**
(日本リハビリテーション医学会
研修施設)

各診療科医師も同様ですがリハビリテーション科専門医が常勤で勤務しており、疾病や障害の診断、評価、治療、リハビリテーションゴールの設定、リスク管理、リハビリテーションチーム統括、関連診療科との連携など多岐にわたりセラピストをサポート牽引しています。

**主治医との連携で
リアルタイムなリハを実践**

主治医は、リハ室へもたびたび訪れて患者さまの状況を確認。その場でさまざまなディスカッションや指示変更など、リアルタイムなリハを実践しています。

**ウォーキング
カンファレンスを実施**

移乗介助などチーム内統一した介助方法を実践するために、リハスタッフが中心となり、トイレやベッドサイドなどでウォーキングカンファレンスを実施しています。

学術大会への積極的な参加

様々な学術大会などにも積極的に参加、日常業務の成果を発表しています。

**病棟やリハ科内で
カンファレンスを実施**

病棟でのカンファレンスは主治医をはじめ関連職種が多数参加し、活発な意見、情報交換、統一が行われています。リハ科内でも退院前訪問指導カンファなど、日常的にカンファレンスを実施しています。

Activity

